

# 第1章

## 高齢者像等の判定結果



## 第1章 高齢者像等の判定結果

第1章は一般高齢者の調査結果における市全域の高齢者像を含む各種判定結果について、前回調査と比較しながら分析しました。

表1.1 高齢者像

高齢者像	
一般高齢者	要支援者・要介護者・事業対象者を除く65歳以上の高齢者の方を称しています。
健康高齢者	一般高齢者のうち、介護予防事業対象者、サービス事業対象者に該当していない方を称しています。
介護予防事業対象者	一般高齢者のうち、サービス事業対象者と判定される方を除く、6つのリスク（「運動器の機能低下」「低栄養の傾向」「口腔機能の低下」「閉じこもり傾向」「認知機能の低下」「うつ傾向」）の何れかに該当した方を称しています。
サービス事業対象者	一般高齢者のうち、6つのリスクの何れかに該当し、家族構成が一人暮らしか共に65歳以上の夫婦二人暮らしの方、もしくは日中独居状態がよくある方で何らかの介護・介助を受けているまたは必要としているが受けていない方を称しています。
事業対象者	要支援者を除き、介護予防・日常生活支援総合事業の対象となっている方を称しています。
要支援者	要支援1・2の認定を受けている方を称しています。
要介護者	要介護1～5の認定を受けている方を称しています。

※一般高齢者については、さらに3つの高齢者像（「健康高齢者」「介護予防事業対象者」「サービス事業対象者」）に細分化しています。

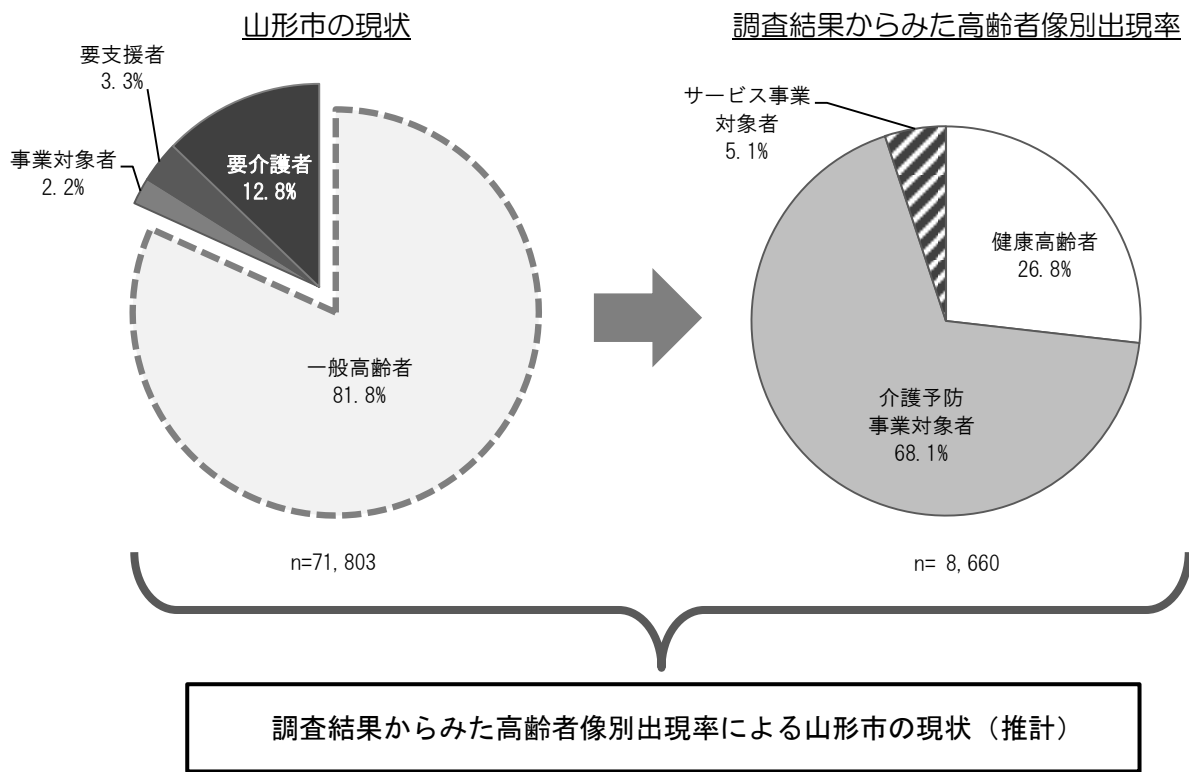
※高齢者像や各リスクの詳細な判定条件は資料編（289ページ）に掲載しています。

# 1 “高齢者像” からみた地域分析

本市における令和2年1月8日現在の高齢者71,803人のうち、要支援・要介護を合わせた認定者数は11,552人（認定率16.1%）で、認定者と事業対象者を除いた一般高齢者は58,707人と高齢者の81.8%となっています。また、一般高齢者の調査結果から高齢者像別に出現率をみると、健康高齢者は26.8%、介護予防事業対象者は68.1%、サービス事業対象者は5.1%となっています。

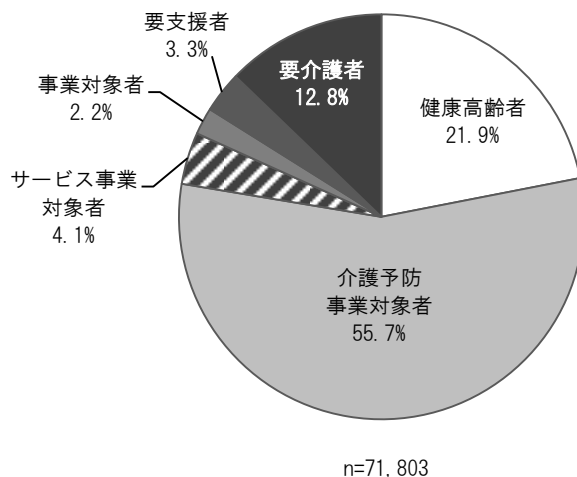
この調査結果による高齢者像別出現率を本市の一般高齢者58,707人（81.8%）に置き換えてみると、健康高齢者は21.9%、介護予防事業対象者は55.7%、サービス事業対象者は4.1%となっています。

図 1.1 高齢者像別出現率



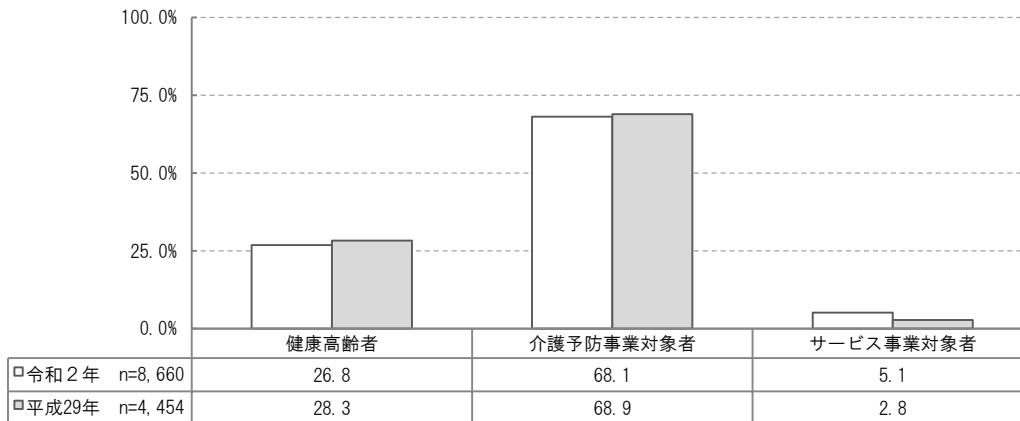
調査結果からみた高齢者像別出現率による山形市の現状（推計）

調査結果からみた山形市の現状（高齢者像別出現率）



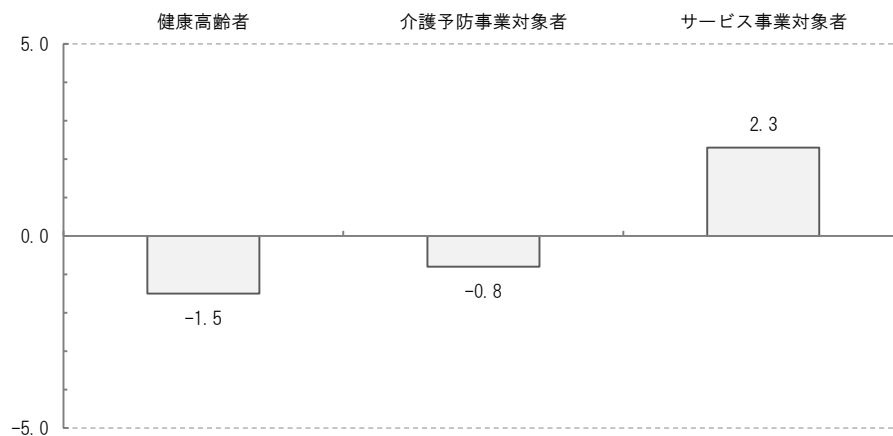
- 一般高齢者における3つの高齢者像別出現率をみると、市全域で健康高齢者は26.8%、介護予防事業対象者は68.1%、サービス事業対象者は5.1%となっています。
- 前回調査結果と比較すると、健康高齢者は1.5ポイントの減少、介護予防事業対象者は0.8ポイントの減少、サービス事業対象者は2.3ポイントの増加となっています。

図 1.2 一般高齢者における3つの高齢者像出現率の経年比較



※サービス事業対象者の判定は、介護・介助を受けている人に加えて、今回から、必要としているが受けていない人も対象としています。

図 1.3 一般高齢者における3つの高齢者像出現率の増減



※平成29年を0.0とし、増減を表示しています。

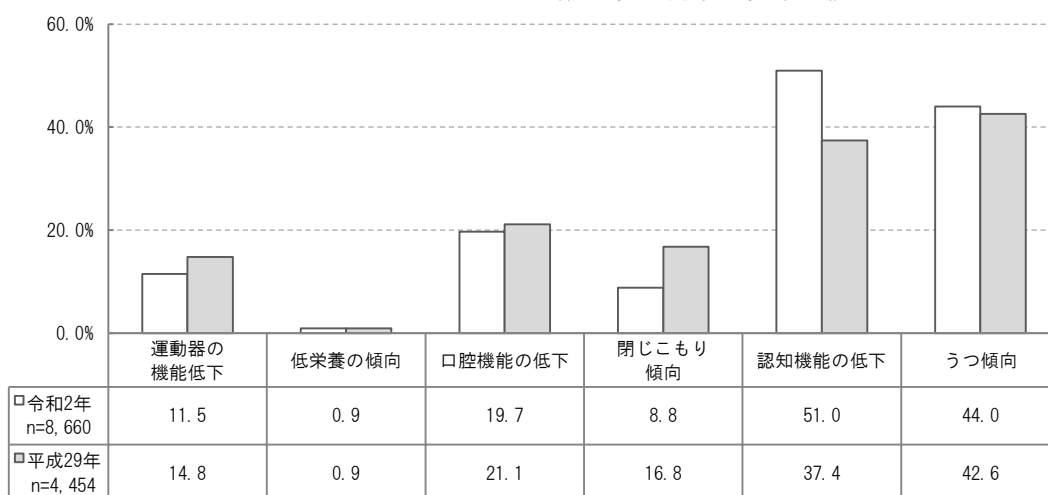
## 2 リスク別該当者の分析

### (1) 各リスク別該当者出現率

○一般高齢者におけるリスク別該当者出現率をみると、市全域で運動器の機能低下は11.5%、低栄養の傾向は0.9%、口腔機能の低下は19.7%、閉じこもり傾向は8.8%、認知機能の低下は51.0%、うつ傾向は44.0%となっています。

○前回調査結果と比較すると、運動器の機能低下は3.3ポイント、口腔機能の低下は1.4ポイント、閉じこもり傾向は8.0ポイント減少している一方で、認知機能の低下は13.6ポイント、うつ傾向は1.4ポイント増加しています。

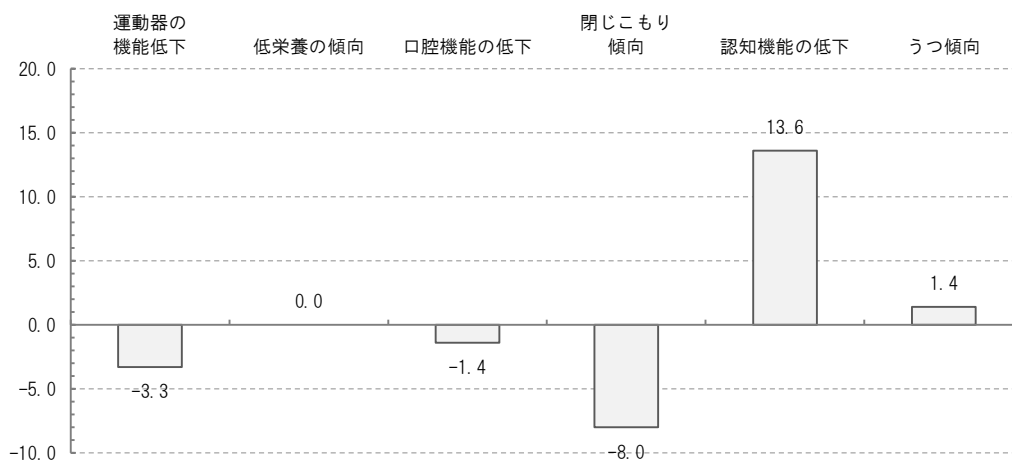
図 1.4 リスク別該当者出現率の経年比較



※閉じこもり傾向の判定は、1問中1問該当判定から2問中2問該当に判定を変更しています。

※認知機能の低下の判定は、1問中1問該当判定から3問中1問以上該当に判定を変更しています。

図 1.5 リスク別該当者出現率の増減

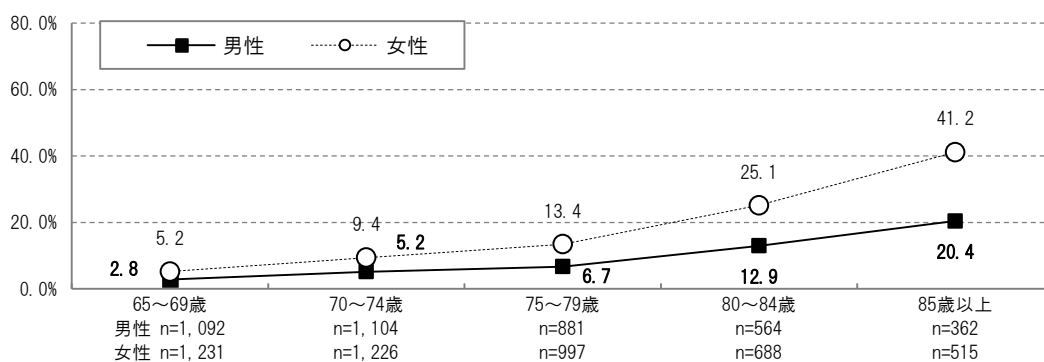


※平成29年を0.0とし、増減を表示しています。

## (2) リスク別該当者の性別年齢階級別出現率

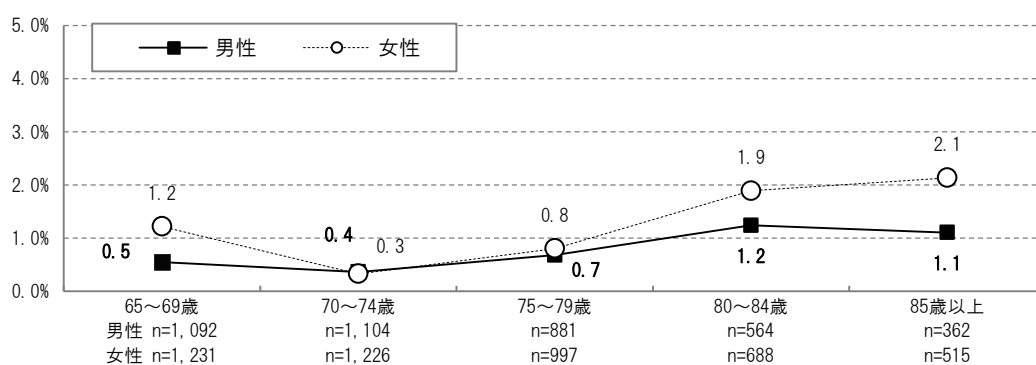
○運動器の機能低下リスク該当者の出現率を性別年齢階級別にみると、男女とも加齢とともに高くなり、特に80歳から大きく上昇しています。また、全年齢階級で女性の割合が男性を上回っています。

図 1.6 運動器の機能低下リスク該当者の性別年齢階級別出現率



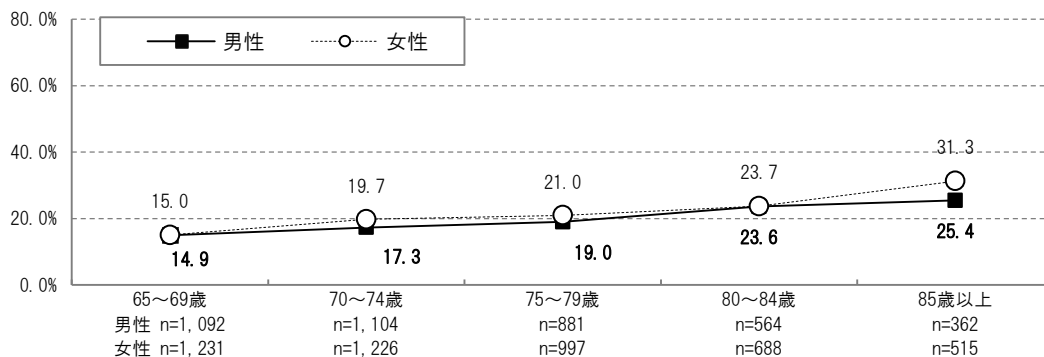
○低栄養の傾向リスク該当者の出現率を性別年齢階級別にみると、男性は80~84歳で最も高く、女性は85歳以上で最も高くなっています。また、70~74歳を除き女性の割合が男性を上回っています。

図 1.7 低栄養の傾向リスク該当者の性別年齢階級別出現率



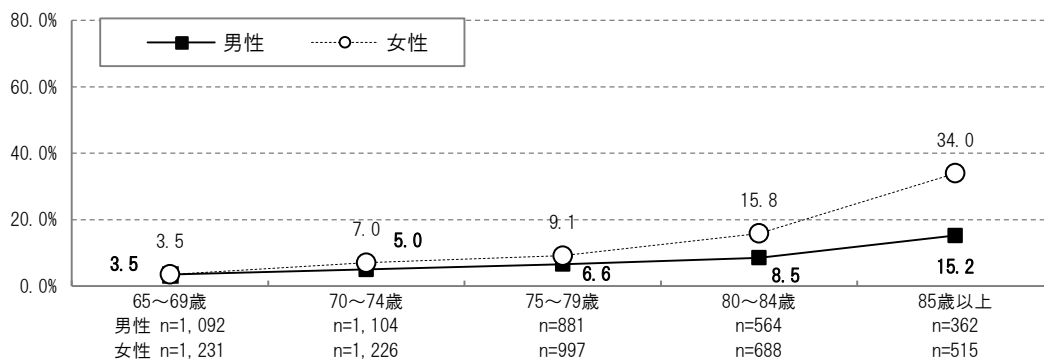
○口腔機能の低下リスク該当者の出現率を性別年齢階級別にみると、男女とも加齢とともに高くなっています。また、いずれの年齢階級でも男女での差は僅差となっています。

図 1.8 口腔機能の低下リスク該当者の性別年齢階級別出現率



○閉じこもり傾向リスク該当者の出現率を性別年齢階級別にみると、男女とも加齢とともに高くなり、特に女性は85歳以上で3割を超えています。また、65~69歳を除き女性の割合が男性を上回っています。

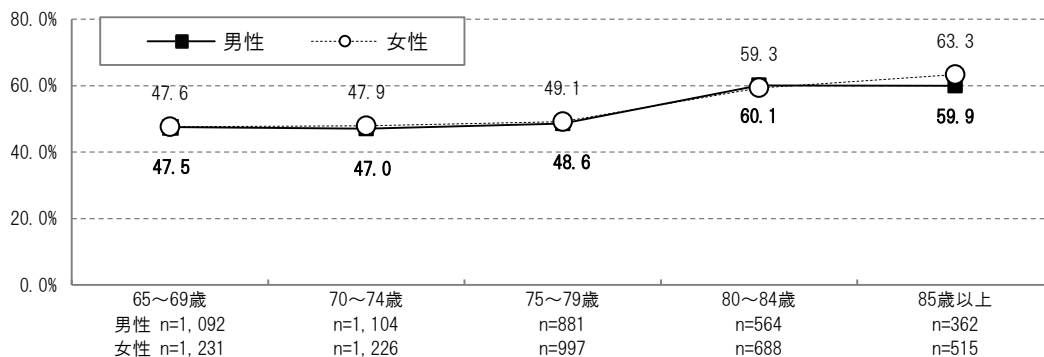
図 1.9 閉じこもり傾向リスク該当者の性別年齢階級別出現率





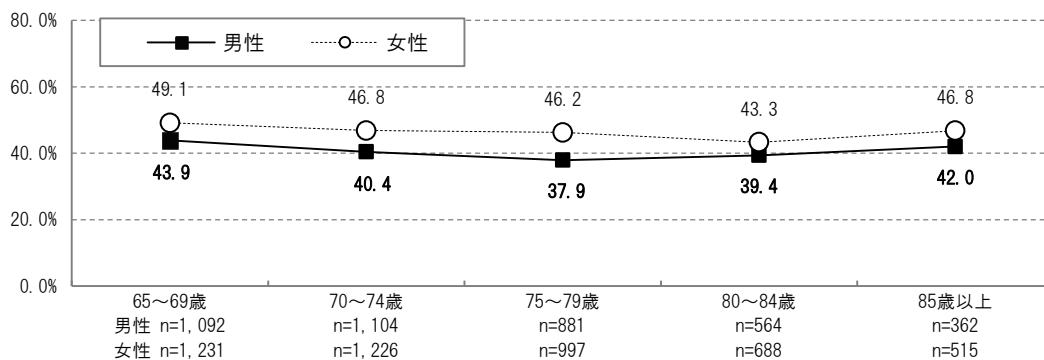
○認知機能の低下リスク該当者の出現率を性別年齢階級別にみると、男女とも80歳から割合が高くなっています。また、いずれの年齢階級でも男女での差は僅差となっています。

図 1.10 認知機能の低下リスク該当者の性別年齢階級別出現率



○うつ傾向リスク該当者の出現率を性別年齢階級別にみると、女性は全年齢階級で4割を超えており、男性も全年齢階級で4割前後となっています。また、全年齢階級で女性の割合が男性を上回っています。

図 1.11 うつ傾向リスク該当者の性別年齢階級別出現率



### (3) IADL 低下該当者出現率

○ IADL 低下該当者出現率をみると、4.3%となっており、前回調査結果と比較すると、2.1ポイント減少しています。

図 1.12 IADL 低下該当者出現率の経年比較

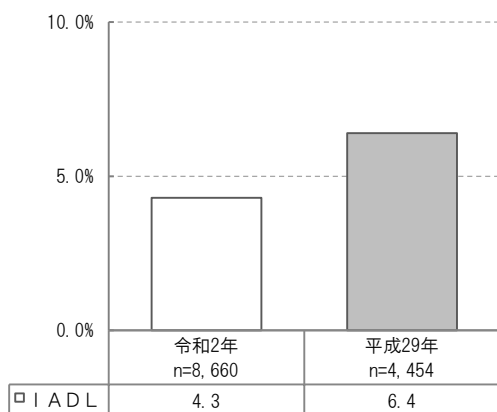
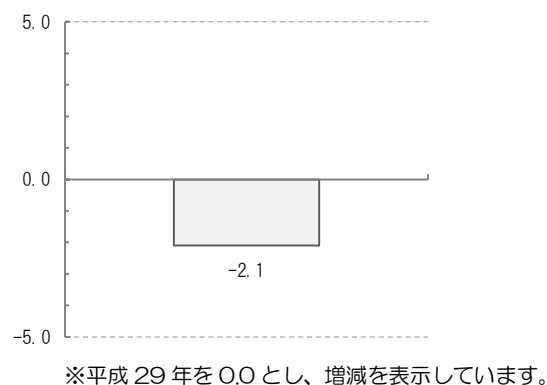


図 1.13 IADL 低下該当者出現率の増減



### (4) 知的能動性低下該当者出現率

○ 知的能動性低下該当者出現率をみると、10.8%となっており、前回調査結果と比較すると、1.5ポイント減少しています。

図 1.14 知的能動性低下該当者出現率の経年比較

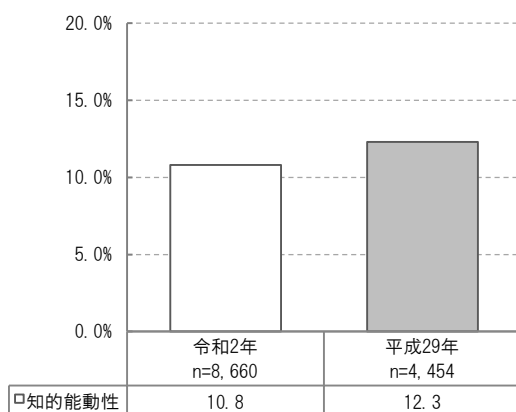


図 1.15 知的能動性低下該当者出現率の増減

